

障がい者チャレンジトレーニング（職場短期実習）事業 好事例

（支援機関）障がい者就業・生活支援センター

1. 本人プロフィール			
障がい種類・程度	手帳なし（ADHD【不注意型】LD）		

2. 職場情報	
業種	サービス業（飲食）

3. チャレンジトレーニングの実施			
日数	10日間	勤務時間	3時間／日
実習内容	盛り付け、食器洗浄		
支援機関による 職場への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、始業時か終業時に会社を訪問して本人の様子を伺い、随時、本人の特性や対応のコツについて、以下の5つのポイントを説明した。 <ul style="list-style-type: none"> ア) 慣れない人や初めての場所が苦手 イ) 一度に2つの指示をすると混乱するので1つずつ指示を出す。 ウ) 初めのうちはゆっくりと本人のスピードで仕事をさせてほしい。 エ) 接客場面では、簡単な質問でもすぐ答えられないことがあるので、「実習生」の名札を付けて理解を求める。 オ) 「指示どおり仕事ができる」「道具を丁寧に扱える」「覚えたことは確実にできる」という本人の良さを伝える。 ・ハローワークと連携し、トライアル雇用や各種助成金の説明をした。 		
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジトレーニング実施前に、従業員と話す機会を設けて緊張感を和らげられるように配慮した。 ・業務等の指示は、簡単な言葉で行うようにした。 ・毎日の実習の最後に、職場の担当者と本人が話す場を設けて、翌日の業務で気をつけることを、本人がその場でメモを取るようにした。 		

4. 就職後の様子	
仕事内容	盛り付け、食器洗浄（短時間トライアル雇用）
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・指示がわからないということがあった場合、再度簡単な言葉に言い直して指示を出している。
支援機関による 就職後の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職後は2週間に1回職場訪問し、本人の様子を伺って職場へ報告している。 ・仕事が休みの日に定期的（月1程度）に障がい者就業・生活支援センターで面談を行い、職場での悩みや困りごとなどを相談できるようにしている。 ・本人が職場で伝えられなかったことは、支援機関が代弁するようにしている。 ・業務が指示どおりできた際に褒めることは、仕事へのモチベーション向上に効果的であることを伝えている。
チャレンジ トレーニング後の 職場の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジトレーニングを進める中で、支援機関から「本人と関わる際のコツ」を聞いたことにより、職場から本人へ業務内容をうまく伝えることができた。